



第5号 発行日 平成20年7月

増刊号

日頃、地域医療連携にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。
うございます。

今回は、地域医療チームの一員として、当院のオープンベッドをご利用いただいている高橋先生をご紹介します。

先日、訪室された先生は、患者さんに「地震で、家、壊れねえがったが〜」と言葉をかけておられました。
かかりつけ医の先生と患者さんとの強い絆が感じられた一時でした。

地域医療連携室 高山国子

オープンベッドを利用して

十文字町 高橋医院
院長 高橋 和彦 先生



昭和62年10月に開業以来、自分の健診で平鹿総合病院に向くことはあっても、患者さんを診察に行くなど考えたこともなかったが、今回、オープンベッドを利用する機会があり、かつ地域医療連携室の高山さんから薦められ、一筆書かざるをえなくなった。

オープンベッドを利用する話が持ち上がった際、大雄の渡辺先生から「病院に行って自分の患者さんを診て、カルテに簡単かつテキトー(モトイ適當)に記載してくればいいんだ。」と聞いていたので、悩むこともなく承諾し、午後休診の木曜日を利用し、診察？(患者さんへの顔見せ)をしてきた。

私にとっては、専門外だったこともあり、患者さんの顔を見て聴診器を当て、二言三言、患者さんやその家族に話しかけて診察は終わり。私が記載するべきカルテ欄には、会話の内容、尿量、血圧などのデータを書き、最後に「現在の治療を継続」と記載、自院のカルテにも同様の内容を記して全て終了、お茶をごちそうになり帰宅の途に着いた。

患者さんの顔を見に行った程度の、とても「診察」とはいえないものであったが、後日患者さんの家族から大層感謝されたのには正直驚きであった。

オープンベッドの利用は、患者さんだけでなく開業医にとっても有益であり、個人的には1回350点(登録医が開放病床の患者を訪室し、診察する毎に登録医に350点が加算される)以上の集客(患)効果があるのではないだろうかと思われる。また、勤務医と開業医とのコミュニケーションを図る場としても、今後さらに活用されるべきであろう。



「尿量はよ〜」



「 ああ〜 先生!!!」



「もうすぐ退院だなあ〜」